

時の視点

直納部が抱える現況と感想①



東京都製紙原料協同組合
直納部部長

赤染 清康

昨年は直納部活動に協力いただき、感謝申し上げます。今年も引き続き宜しく願い申し上げます。1年前の今頃はリーマンショックの影響で古紙の国際価格が大暴落した中で年が明け、先行きの不安に満ちた新年でした。今年は状況が回復しつつあり、皆様も若干穏やかな気持ちで正月を迎えられたことと思います。

年初来、古紙再生促進センター、全原連の新年会などに出席してお話を聞きましたが、製紙連の予測によりますと、昨年の洋紙の生産量は08年度比80%。今年も景気は横這いが続き、板紙は1.5%の微増。古紙は中国向け輸出状況が活況を呈しつつあります。この時期は毎年のことで旧正月を控えて調整局面ですが、旧正月が終われば中国の勢いから察しまして、買い気は戻っていくものと思われれます。

古紙センターの石田隆理事長(王子製紙副社長)は新年の挨拶で「古紙リサイクルの輪は国内で完結していたが、中国と日本というもう一つの輪が出来上がった」と言われました。私も同感ですが、さらに言えば、中国の勢いからすると日本の古紙市場がアジア経済圏、アジアの輪の中に飲み込ま

れつつあるといっても過言では無いと思います。

昨年の11月にナインドラゴンの主力工場を視察する機会を得ましたが、生産量は月間30万t。同社09年の生産計画は月間750万tでしたが年後半になり880万tに上方修正しました。中国の早い景気回復と内需拡大に伴い、2010年は1,050万tを予定しているとのこと。中国の活発な古紙需要を満たすため日本の古紙を視野に入れているが、さらに、板紙に加え洋紙分野にも進出するので、日本の古紙業界は国内で余剰となった500万t弱、発生量の25%弱に当たりますが、今年はこれ以上の数量を輸出することになると思います。

ということで、今年は09年に比べ力強い古紙業界になると思いますが、干支の寅に例えると寅は獲物に近づくときには細心の注意を払い、襲いかかるときは大胆に行動すると言われています。集荷の皆様はもとより、古紙業界の皆様には「仕入は慎重に、販売は勢いよく」とお願いできる年になればと願っております。

直納部が抱える現況と感想②



東京都製紙原料協同組合
直納部副部長

小林 健二

時の経つのは早いもので、世界中が不況のどん底に落とされたリーマンショックから1年半になるかというこの時期でも、日本はまだまだ深い底に沈んだままあらゆる業界が苦しんでおり、なかなか上昇機運に乗れない経済情勢のままです。

製紙業界を取り巻く市況もなかなか好転せず、

苦戦を強いられている現状です。しかし我々の扱う古紙は、昔と違い国内の需給による循環型市場だけではなく、大方の古紙品種が増加し海外市場に出荷され、ますますグローバル化しています。

価格面でも国内価格と国際価格と2本立てで市況が流動的になっております。

現在の直納部としての大きな課題と致しましては、現況古紙の発生減が毎月続いております市況に対しまして、直納部だけの問題でなく集荷部の組合員も同様で、非常に辛く2月22日の静岡県紙業協会との懇談会の席上、集直一体となり古紙の発生状況、輸出市況等を説明致しまして古紙価格の修正を期待致しましたが、各家庭紙メーカー様共、明確な説明が無く早い時期の実現を期待出来そうな会議ではなく、残念な結果になった様に感じられました。

製品価格の修正後、再度の確認をしなければならず組合員一致団結致しまして、是非成就に向かって頑張らねばと思っております。

直納部が抱える現況と感想③



東京都製紙原料協同組合
直納部副部長

上田 晴健

昨年のこの時期、急激な需要減退により販売不振にあえいでいた事を思い出します。国内外の価格差は10円強（海外が10円強安い）にも上り、大幅な国内の発注減による、需給ギャップは解消できるのかと途方に控えていました。本年の国内製紙メーカーの需要不振というものはあまり昨年

対比変わっておりません。昨年のこの時期と大きく違うのは海外メーカーの旺盛な需要です。これにより国内の不足した需要は、取りあえず解消された感があります。

一方景気後退による発生減、それ以外に出版不況による印刷、製本業の不振というものが我々に重くのしかかってきております。当組合員にとってはこの印刷不況のほうが大きいかもしれません。発生減による取扱高の減、これが今抱えている大きな問題になってきております。通常、景気の良いときは取扱高増大のためにkg当りの利益を縮めてでも扱いを増やそうと過当競争になりがちです。今回は取扱高減少により、扱い高復元を目指すという、いびつな過当競争となっております。また主な発生もとである印刷業、製本業のお客様も大変な経営状況に置かれており、我々の窮状にはご理解を示していただけるものの、バックアップをいただける状況はありません。

直納部といたしましては国内外の製紙メーカーと連携をより一層密に取り、古紙の再生産可能な価格帯の安定を図るとともに、集直一体での一層の合理化に向けてこの難局を乗り越えたいものです。

時の話題

静岡県紙業協会家庭紙部会 との懇談会

[平成22年2月22日(月)午後2時00分～]

於) 富士工業技術支援センター

出席者: 静岡県紙業協会家庭紙部会 30名

(内、家庭紙メーカー 24名)

静岡県製紙原料商業組合 10名

東京都製紙原料協同組合 14名

三団体代表挨拶

イデシギョー(株) 井出代表取締役会長

[静岡県紙業協会家庭紙部会]

家庭紙の状況は、昨年の夏頃より大手も中小メーカーも赤字状況が続いている。3月、4月にかけて家庭紙の中、小メーカーは製品の価格修正に期待している。昨年のトイレットペーパーの出荷量は約104万トンで前年比100%であった。輸入物のトイレットペーパーのシェアは2.3%で、前年比0.3%の増であった。

ティッシュペーパーの出荷量は48万4千トンで前年対比99.5%であった。輸入物を含め全体で102.5%であった。

トイレットペーパー、ティッシュペーパーとも前年比を充分クリアしている。

最近、古紙が逼迫していると聞いていますので、本日は情報をしっかりと把握して個々の対策を考えていきたいと思っております。

近藤理事長 [東京都製紙原料協同組合]

リーマンショックから2年が経過し景気が下げ止まった感がでてきましたが、まだまだ苦しん

でいる状況が続いています。是非、この機会に家庭紙メーカーの製品価格修正が実現する事を期待いたします。

昨年の古紙の回収量は120万トン減少いたしました。海外におきましては、アメリカ国内の古紙消費が増加している事と世界的に古紙の発生が減少している事により、中国からの日本への買い意欲が高まってきています。昨年の秋ごろから急増しております上物古紙の輸出につきましても、ある業界誌によるとオフィス古紙を含めて3万トン、年間36万トンの古紙が輸出されていると聞いています。古紙をとりまく環境も変わってきており、最近では国内洋紙メーカーで新たに上物古紙を求めてきているという話も聞きます。

現在、印刷、製本業界が大変厳しい状況にあり国内の古紙が大幅に減少しています。本日は我々、組合員のほうから色々な意見、要望等がでてくるかと思われませんが、情報交換を通じてご検討くださるようよろしくお願い致します。

佐野理事長 [静岡県製紙原料商業組合]

発生の減少による家庭紙原料の逼迫感、輸入等の対応が難しい状況になってきております。年に3回しかない会合で、本日は情報交換を密にして有意義な会にしていきたいと思っております。

古紙全般の市況について

赤染直納部長 [東京都製紙原料協同組合]

2009年の洋紙メーカーの生産量は、前年対比80%で今年も横ばいの予想である。板紙は1.5%と微増の予想。家庭紙原料に関しては、2009年度は前年と比べ30%減少している。現状では印刷・製本業界の不況のため古紙の発生は20%～25%減少している。

輸出は12月に価格が高騰し、1月に入り少し下がったが2月に入り強含みとなっている。中

国の需要は堅調である。中国のある洋紙メーカーでは今年の後半より生産の強化を計画している。当組合で行っている共販輸出では、1年間ストップしていたケントの輸出が11月より再開し、今月も堅調である。

集荷部門では、約1年間続いた原料価格では選別賃まで捻出できないで困っている。早期に製品価格の修正が実現される事を期待する。パルプ価格も以前と比べ戻っており、家庭紙原料も品質維持のために値戻しを期待したい。

家庭紙原料について

小林直納部副部長 [東京都製紙原料協同組合]

昨年12月以降、古紙の発生は低調のまま家庭紙の在庫はランニングストック状態である。問屋サイドでは産業古紙の入荷が20%～25%減少している。

輸出価格は、1月に若干、下がったが、また上がってきている。中国からの需要が高まりつつあり、日本への依存度が高まっている。

国内は、洋紙が売れないため発注が少なく古紙の発生も増えない。各原料問屋からの声では、発生が少ないため一部ではキャンセル対応、又、プレスを少なくして対応している。輸出の場合は選別コストが低くてすむので輸出に廻して急場をしのいでいる状況である。安定供給と品質向上のために、製品価格の修正を実現して原料価格の値戻しに結び付く事を期待している。

集荷関係より

宮崎集荷部長 [東京都製紙原料協同組合]

製本、印刷業界の不況で発生が悪く仕事が激減している。このままでは集荷業を存続するのが難しい状況にきている。従来の原料価格帯では選別費が捻出されず、廃業者が増えている。製品の価格修正にともなう原料の値戻しに期待している。

静岡の状況について

[静岡県製紙原料商業組合]

集荷の状況が良くない。発生は20%減少し、今後も発生増は見込めない。

近年、中国の輸出は見逃せない状況にある。中国市場は急激に回復し、内需が伸びてきており上物にも興味を示してきている。板紙関係の需要が大きくなっており、価格、数量等の問題を密に検討していきたい。家庭紙は選別等の人件費がかかるので、納入にはコスト計算をしながら取りまなければならないと考えている。

家庭紙メーカーからの現状と意見

[静岡県紙業協会家庭紙部会]

- ・製品の減産は計画通りに行えている。
- ・古紙原料との需給のバランスは取れている。
- ・製品価格の底上げに期待している。

質疑応答

G：原料業者 **M**：家庭紙メーカー

G-Q：原料価格と安定供給について

M-A：原料価格が修正されれば選別費出て、より高級品が集荷でき納入も可能となる。家庭紙原料は選別のコストがかかるので、良い品質をキープしてもらうためにも原料価格の値戻しは必要である。

G-Q：関東の洋紙メーカーでは、原料に捺染紙が混入し多額の被害が出ているが、静岡の家庭紙メーカーでは事例があるのか。

M-A：今のところ事例はない。

静岡県紙業協会家庭紙部会 との懇談会に出席して

出席した印象を一言でいえば、前回のレジャービューを見ている様な感じでした。少しも話の内容に新鮮味がありません。話が噛み合わないのです。我々古紙業者は今後の古紙市場の動向で危惧している点を、回収現場の窮状や中国市場の動向を例に話をしました。しかし製紙会社の皆さんは現状の話に終始しました。具体的に言えば、入荷は順調で在庫は潤沢にあるという事を、異口同音に述べられました。

話している視点が異なっている以上、原料の価格修正が先か、製品の価格修正が先かの見解もすれ違うのは当然です。結局は、古紙は足りなくなれば価格が修正され、余れば価格を調整すると言う、極めて当たり前の事を確認した事になります。「見えざる手」に導かれ需給関係だけで流れていく事になります。

長い取引関係の両業界ですから、今後の関係を維持するために、もう少し長期的視点に立った忌憚のない意見交換が必要ですが、製紙会社の仕入担当者に、それを期待するのは無理なのかも知れません。懇談会の進め方に工夫が必要かも知れません。

第7回 合同新年会

広報部副部長 脇 克美

去る1月16日6時より、日暮里のホテル「ラングウッド」に於いて恒例の合同新年会が132名の参加を得て開催されました。

前回まではほとんど来賓客を呼ばず、組合員同士の親睦を図るのが目的でしたが、第7回となる今回は関係の深い公官庁や諸団体の方々をご招

待し、当組合との関係をより一層深いものにするという意図も加味することになりました。



当日は久保田荒川支部長の司会進行でまず近藤理事長の主催者挨拶にはじまり、経済産業省課長の進藤 秀夫様、衆議院議員の田中美絵子様、元都議会自民党幹事長の高島直樹様より来賓祝辞をいただき、それぞれの方々より励ましのお言葉を頂きました。



経済産業省製造産業局紙業生活文化用品課
課長 進藤 秀夫 様



衆議院議員 田中 美絵子



**元東京都議会自由民主党幹事長
高島 直樹 様**

東京都製本工業組合理事長の星野一男様による乾杯のご発声で宴がはじまりました。星野様からは大変厳しい商況ではあるが両組合互いに協力し、手を携えてゆきたいとお言葉がありました。



自由歓談の後、恒例となった支部対抗カラオケ大会となりました。青年部の廣田幹事長の司会で進行され青年部の皆さんがお手伝いして円滑に各支部代表による歌声が次々に披露されました。皆さんどなたもお上手で会場を飽きさせることがありませんでした。



関東商組の深田理事長の中締めの後、業務部長、支部長が壇上に上がり、山田文京支部長の閉会の辞でお開きになりました。



東京返本加工協同組合 新年会開催 事務局

平成22年1月28日(木) 東天紅 上野本店
8階 「ザ・ルーキス」の間に於いて東京返本加工協同組合 新年会が開催されました。



当日は、出版共同流通株式会社、日本出版販売株式会社、栗田出版販売株式会社、株式会社太洋社の幹部の方々、東京都製紙原料協同組合 清水副理事長並びに夏目専務理事、組合員、職員を合わせ総勢 52 名にご出席をいただき盛大に開催された。

式の冒頭 主催者側を代表し、工藤理事長が挨拶に立ち昨年のリーマンショック後、出版業界も 2 兆円を割りこみ、紙業界は、20 年前にさかのぼる冬の時代を向かえる状況が続いているが、今年読書の価値を見直し意識の啓発を目指す「国民読書年」の話が述べられた。

続いてご来賓を代表しまして出版共同流通株式会社 代表取締役社長 高見吉弘様より日版における物流改革の話が述べられ、新しい取引形態を確立し、利益の向上を図りたい旨のお話をいただきました。

続いて出版共同流通株式会社 高田専務様の中国での乾杯のご発声で懇親会はなごやかにスタート致しました。



宴中、司会よりご来賓の東京都製紙原料協同組合様、取次販売会社様並びに出版共同流通株式会社様の紹介があり、また 2009 年 11 月に新組合員になられた和光紙業さんが紹介されました。

TOM 恒例の初参加者の自己紹介をかねたカラオケ大会では 9 名の方々が日頃から鍛えられている自慢の喉を披露していただき、途中、高見社長のサプライズもあり、飛び入り参加で出版共同

流通(株) 長田次長、TOM では工藤理事長、稲生専務理事が自慢の喉を披露する一幕もありました。



立食形式の各テーブルではあちらこちらで大きな笑いと輪がいくつもでき、齋藤副理事長の中締め挨拶をもって 19 時 45 分に散会となりました。

お忙しい中、懇親会にご出席をたまわりました皆様、誠にありがとうございました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

全原連の新年会 および懇親ゴルフ会

広報部部长 清水 弘允

全国製紙原料商工組合連合会(全原連)の新年会および懇親ゴルフ会が 1 月 21 日(木)、1 月 22 日(金)に開催された。

新年会は浅草ビューホテルにて全国から関係者約 130 名が集まり盛大に開催された。当組合からも近藤理事長をはじめ、理事を中心に 10 名程度参加した。栗原正雄理事長の挨拶のあと、来賓を代表して甘利明衆議院議員(リサイクルシステム議員懇談会会長)、経済産業省紙業生活用品課進藤秀夫課長、製紙連合会羽山正孝理事長の挨拶があり、古紙再生促進センター石田隆理事長の乾杯で祝宴となった。全原連は文字通り全国組織の集まりなので、この機会を利用して出席者がお互いの旧交を温め情報交換を行う事が出来た。

翌日は全原連の IT 推進委員会が担当幹事とな

り、懇親ゴルフ会を太平洋クラブ成田コースにて開催。総勢 35 名の多数の参加となり腕前を競ったが、我が組合の近藤勝理事長が栄えある優勝に輝いた。

集荷部新年会を開催

集荷部部长 宮崎 勝保

場所：湯島「江知勝にて」

日時：平成 22 年 2 月 20 日（土）

参加者：13 名

開宴前に、静岡県紙業協会家庭部紙部会に行くための話し合いが行われました。

2 月 10 日の集直委員会の結果同様、集荷部としては、選別費が出るような内容の発言と意見をまとめました。

また、委員会をいくらやっても参加者が同じメンバーばかりなので、集荷部の参加者をもう少し増やす事は出来ないのかという意見もでていました。

開宴の司会は、ノボル紙業の近藤副部長にお願いをし、松井副理事長と赤染直納部長の挨拶により開宴しました。

乾杯のご発声は、上田直納副部長にお願いしてスタート。その後、すき焼きをつまみながら楽しい一時を過ごすことが出来ました。



支部便り

城南支部新年会に参加して

城南支部 大橋 宏之

去る、2 月 6 日・7 日、恒例の城南支部新年会が、伊豆・大仁ホテルにて催されました。

共益・商会からは私、大橋が初参加させていただきました。業界を永年牽引されてきた諸先輩がたと一泊の新年会を過ごさせていただいたことは、大変勉強になり、光栄に思います。

当日は、新潟地方が 26 年ぶりの大雪に見舞われるなか、関東地方は冬晴れの、絶好の旅行日和となりました。東京駅・銀の鈴に坂田支部長以下、10 社 11 名が集合し、13 時 30 分発の踊り子 117 号に乗りました。横浜の街並みや、伊豆の山々、海の景色を眺めながらのリラックスした列車の旅を過ごし、大仁ホテルには 16 時の入館となりました。

大仁ホテルはご存知の方も多いと思いますが、若き日の長嶋茂雄が自主トレの定宿にしたことでも有名な、純和風の日本を代表するホテルです。温泉に浸ったり、散歩したりと思いのひと時のあと、18 時より大広間に集合。



坂田支部長の新年のご挨拶、石井社長の乾杯のご発声と続き、和やかに新年会が始まりました。豪華料理に舌鼓を打ち、記念撮影を済ませた後、会場をホテル内の別室に移し、カラオケに興じながら、楽しい懇親の一夜が過ぎました。ご参加の皆様、さぞ鋭気を養われたことと思います。

さて、今年も国内景気が不透明感を強めるなか厳しい一年が続くものと予想されます。このような時こそ、組合員一同力をあわせ、この不景気を乗り切り、来年また笑顔でこの新年会に集えれば幸いと思います。

最後に幹事をお努めになりました舟戸様ご夫妻、会計をお努めになりました井出専務様、大変お疲れ様でした。城南支部の益々のご発展を、心よりお祈りもうしあげます。

荒川支部新年会開催

荒川支部長 久保田 貞行

平成22年、新年が明けて、仕事も始まりました1月6日（水）午後6時半より根岸「宮川」にて荒川支部新年会を開催しました。

22名が出席していただき、正月気分も終わりのよいよ新しい年の始まりという雰囲気の中、美味しいうなぎ料理を頂きながら、コンパニオンとの会話に盛り上がり、皆さん和やかに2時間程、宴会が続き、お開きとなりました。その後の二次会はそれぞれに流れ流れて行かれた様です。

中央支部新年会開催

中央支部長 菊池 武美

中央支部新年会は1月30日（土）午後6時より昨年同様、チャイニーズダイニング「過門香」

銀座本店にて開催致しました。参加者は、日頃仕事の関係で出席できない人の参加もあり、7名（当日カゼの為1名欠席）の出席でした。

乾杯の後、懇親会に移り、世紀を超え、国境を越え、中国大陸料理を堪能していただきたいという思いで名付けたといわれる店名にふさわしいおいしいコース料理をいただきながら、酒量もすみ大いに盛り上がりました。中締めは、小森社長にお願いしてお開きとなりました。

昨年は組合本部・支部活動にご協力賜りありがとうございました。



千代田支部新年会開催

千代田支部長 近藤 正彦

去る、1月19日（火）青年部2名を含め13名で都民銀行和室にて、盛大に行いました。

不景気の中で老若一緒に、今年一年元気で乗り切ろうと、大いに盛り上がり解散した。



組合員の広場

酷寒のニューヨーク・シカゴ旅行

理事長 近藤 勝

昨年、結婚30周年を迎えましたが、家内の父が急逝し半年遅れの記念旅行となりました。家内や友人から日本とはかなり寒さが違うと聞かされておりましたが、正直何とかなる位の気持ちで出発致しました。

ニューヨークのラガーディア空港からマンハッタンにあるホテルまでタクシーで20分位でした。途中、車窓からマンハッタンの摩天楼が見えて来た時、数十年前にテレビの映像で見た時のあの強烈な印象は不思議とありませんでした。きっと現在の新宿やお台場のレインボーブリッジからの景色、上海で見る高層ビル群に見慣れたせいだと思います。唯、あの中に本当は二棟の世界貿易センタービルがあったのだと思うと、何とも言葉では表せない、大変な所へやって来たという実感が湧いて参りました。

到着したホテルはタイムズスクウェアに面した場所であって、目が回るほどの電子広告が派手な色彩と動きを交え、縦横にぎっしりと並んでいる状況が窓から見えました。その晩はホテルの真正面にあった本場のミュージカル「ライオンキング」を観劇したのですが、自分でも信じられない程本気で感動致しました。

翌日は一日マンハッタンの市内見学。家内と二人でガイドブックを見ながら、地下鉄の一日パス券を購入し自由の女神からスタートすることにしました。

まず驚いたのは地下鉄が複数線となっていて急行が真ん中の線を猛スピードで走っている事でした。

た。7つも8つもの路線が入り混じっており、日本の様に各路線が独立していない。従って同じホームに色々な路線の電車が次々と入って来るので何線なのか急行か各駅停車かをよく確認して乗らないと大変なことになる。



テレビで見た光景の地下鉄に乗りアメリカ気分を満喫していると、こちらでも日本と同じく多くの人達が携帯電話を覗いている。日本の様な二つ折りではなく、今、はやりの 아이폰の様だ。自由の女神はマンハッタン最南端の公園から船でリバティー島へ渡るのだがシーズンオフだったせいか空いていた。しかし、9.11の事件以降、観光地はどこもセキュリティが空港並みの厳しさとなっていて、そこを通るだけでも結構な時間を要する。彼女はアメリカ建国100周年にフランスから贈られた後、自由を求めてヨーロッパから移民してきた人々の灯台の役目を果たしていたそう。見学が終わると早速、地下鉄に乗り、ウォール街、NY証券取引所、世界貿易センタービル跡、エンパイアステートビル等を見て回る。世界貿易センタービル跡では現在、新たな建設が始まっており多くのクレーンが動き回っていて、悲しみに暮れていた数年前とはすっかり変わっていた。次にブルックリンブリッジという木造の吊り橋を渡ることにした。マンハッタンの東側の川に掛かるこの橋を歩いて渡るのだがとにかく寒い。昼間-5度、夜-10度、とんでもない寒さだ。なん

となく疲れも感じながら橋を渡りきり再度、地下鉄に乗ってグランドセントラル駅へ行く。



高い天井に描かれている星座の数々がとても印象的であり、又そこには通路脇でヴァイオリンを弾いている男性がいた。有名なクラシックの曲を弾いていたが本当に上手で暫く立ち止まって聞き入ってしまった位だ。次の目的地ロックフェラーセンターは毎年クリスマスが近づくと巨大なイルミネーションの映像が日本にも届く。早めに写真を数枚取りホテルまで歩いて帰ることにした。方向感覚には昔から自信があったのだが、暫く歩くと家内がもしかして道が違うのではないかと言い出した。そんな筈はないと黙々と歩くがどうやらホテルとは反対方向の高級ブティックの並ぶ5番街へ来てしまったようだ。おかしいかと周りを眺めていると傍にいた若者がどこへ行くのかと声を掛けてくれた。訳を話すと2本先の交差点を左に曲がったところに駅があるから、そこから地下鉄で行くよう教えてくれた。ニューヨークの人はみんな親切だという話をここで思い出した。その晩はホテルのレストランで食事をし、待望のステーキを頼んだ。ボーイが料理を運んで来る度にエンジョイ、エンジョイと言ってくれるのでワインもそれなりに進んだ。順調な滑り出しだった。

3日目は一日コースでナイアガラの滝を見学した。カナダへ渡る場所があるとの事でパスポートを持参した。ニューヨークのケネディー空港から一時間半、吹雪の中のバッファロー空港へ到

着。外は-15度。ガイドの話では他空港からのフライトは全部キャンセルで我々の便だけだと言う。暫く説明を聞きながら30分程車で走るといよいよナイアガラの滝に近づく。よく見えるスポットへ行く為に川の真ん中にある国境を越えた。アメリカ滝とカナダ滝の二つがあり両方含めてナイアガラの滝となっている。一面真っ白で川もすっかり凍っていて滝の轟音としぶきの煙しか見えない。この日の観光客はパラパラでほとんど我々の貸切状態。周りには大きなホテルが幾つも聳え立ち、カジノの看板も見えるが人はいない。きっとシーズン中は大変な賑わいであろうと想像はできる。帰りの飛行機の中で、少しだが咳が出てきた。これはまずいことに成りそうだと嫌な予感が頭を横切った。

4日目、風邪の症状が出てきたので大事を取って朝はゆっくり過ごす。タイムズスクウェアにあるカフェで遅めの朝食を取り、今日はセントラルパーク周辺の探索だ。外は晴れているのに何でこんなに寒いのか、平気で歩いているアメリカ人の強さに改めて敬意を表したいくらいだ。まず、ジョンレノンが住んでいたダコタアパートの前まで間違えないよう地下鉄の各駅停車の路線に乗る。写真を一枚撮って向かい側にあるセントラルパークへ入る。よく晴れているが、水溜りはコンクリートの様に凍っている。私にとっては地獄の寒さ、風邪の症状が出ていてマスクを着けているのに空気が冷たすぎて苦しい。早めに公園内を切り上げメトロポリタン美術館へ入る。流石に此处は室内ということもあってか大混雑していた。暫く家内と超有名な絵画のみを見て回ったが遂に私はダウン。ロビーのベンチで休憩中、家内には申し訳ないと思ったが一人で見学してもらった。予定ではこの後、5番街を散策する事になっていたが、タクシーでホテルへ戻り休む事にした。



夕飯は友人の知人に頼んで地元の人に人気のあるイタリアンレストランを紹介してもらった。ネイティブなアメリカ気分を満喫したが、その後、予定していたミュージカル「ウェストサイドストーリー」は途中の休憩時間に私だけ中座してホテルへ戻った。

5日目、今日はシカゴへの移動日。世界第二位のハブ空港であるオヘア空港は4つのターミナルと6本の滑走路を持っている巨大空港だ。空港からシカゴのホテルのあるダウンタウンまで乗り合いバスで行く。スケジュールの都合で今晚の内にシカゴの高層ビルであるシアーズタワーへ行く事にした。荷物の整理をした後、ホテルの前からタクシーに乗った。シアーズタワーへ行って下さいと言うと、運転手さんは少し考えた後、うなずいて、ウィリーズ、ウィリーズと言って車を走らせた。暫くしてビルの前に止まり、ここだと言うので変だなどは思いながら仕方なく二人で降りた。確かにビルにはウィーリーズタワーと書いてあるが、入口が分からない。ビルの角を曲がると明るい入口があった。中のエレベーターの脇にいた係員に此処はシアーズタワーではないのかと聞くと、昨年名前が変わったのだという。こんなに大きなビルのオーナーが変わるなんて日本ではまず考えられない。日本のガイドブックさん、しっかりして下さいよと思いながら納得して展望台へのチケットを購入した。ここでもシーズンオフということで、普段ならセキュリティーを含め何時

間も待たされる行列に巻き込まれることなく見学する事ができた。

6日目、一日シカゴ市内の散策に出かける。暫く歩くと街中に色々なモニュメントを発見する。シカゴ川もすっかり凍っていた。三番目の高層ビルであるジョンハンコックセンターの展望台からは今までの夜景とは違い、快晴の中、凍ったミシガン湖や市内全貌を見渡す事ができた。シカゴ美術館で少し時間をかけて見学をした後、メーシーズのデパートや街中のショップを見ながらホテルへ戻る。夕食はあまり食欲もないのでルームサービスのピザにした。

7日目、帰国日となったが全体に強烈な寒さの中で風邪気味となってしまった為か期待していたアメリカンステーキも巨大ハンバーガーも予定どおり食べられず3キロ痩せての帰国となった。帰りの機中、CAが北側の雲海の上に顔を出しているあの山はマッキンレー山だと教えてくれた。私は「そうですか～」と写真を撮ったが、正直その山を知りませんでした。帰ってから地図を広げると確かにロッキー山脈より更に北にあるアラスカ山脈にマッキンレー山という6190mの山がありました。ちなみに富士山は3776m 世界一のエベレスト山は8848mです。一週間のニューヨーク、シカゴの旅を思い出していました。西海岸とは違ってほとんど日本人と会うことがなかったネイティブなアメリカを見る事が出来たと思うし、ウォール街にある証券取引所では毎日、世界のストックマーケットの中心地として酷寒の中で活動を続けているアメリカ人の強さというものを実感しました。機長のアナウンスで成田の気温は6度と聞いたとき、思わず助かったという言葉が口に出たし、6度が暖かいと感じたのも初めてのことでした。皆さんも是非一度はニューヨークに出かけて見て下さい。くれぐれも暖かい季節に！

～シリーズ～

新東京タワーの見える街

「スカイツリー 30景」その①

専務理事 夏目 茂

2008年7月14日、東京の墨田区押上に東京スカイツリーが建設されることとなりました。今回は広報誌を通して、このスカイツリーの完成までの道筋を数々の写真やエピソードを交えてご紹介していきたいと思います。

題しまして～シリーズ～新東京タワーの見える街「スカイツリー 30景」



写真 1 - 30 (H22年2月28日撮影)

スカイツリーの当初の建設目的は、東京都心部に建てられ増加した、超高層ビルから起こる電波障害を低減する事にあります。しかし、建設計画の期間中に地上デジタル放送が次第に普及し、ワンセグ放送の開始も加わってきました。

そこで、これらの問題の解決と2011年7月24日には地上アナログテレビ放送が終了する事もあり、スカイツリーは地上デジタル放送用の電波塔として建設が開始される事となりました。

予定では2011年12月に完成予定で、その後、

試験放送などを経て2012年の春に開業予定です。完成時の高さは634メートルで自立式鉄塔としては世界一となります。

今年の2月には300メートルを越え、2月28日は303メートルとなりました。

3月末、または4月始めには、現在の東京タワー(333メートル)の高さを越えるそうです。



写真 2 - 30 (H21年10月8日撮影)



写真 3 - 30 (H21年11月29日撮影)

上の写真は着工後、人前に姿を現してから昨年の11月までの成長の記録です。最初は、周りのビルより低かったタワーも今ではどこよりも高くそびえ立っています。

これからも順次、スカイツリーの変化と周辺の話話を織り込みながらお届けしたいと思います。どうぞご期待ください。

♪ことわざミニ知識♪

「朝三暮四」

中国の春秋時代、「宋の狙公が手飼の猿にトチの実を与えるのに、朝に三つ暮に四つとしたところ猿たちは少ないと怒り、朝に四つ暮に三つとしたら大いに喜んだ」という故事。

この事から「目先の違いにばかりこだわって、同じ結果となるのに気がつかないこと」「口先でうまく人をだますこと」の意味になる。

先日の国会で野党・自民党が鳩山総理に皮肉を込め、この諺の意味を尋ねたら、鳩山総理が「朝令暮改」と誤解して答弁したそうだ。

支部スケジュール

千代田支部

支部会 4月 5日(月) 菜の家
 総会 4月 5日(月) 庄司
 支部会 5月 7日(金) 菜の家
 支部会 6月 7日(月) 菜の家
 旅行会 6月19日(月)～20日(土)
 鬼怒川ロイヤルホテル

中央支部

支部会 4月 9日(金) 場所未定
 支部会 5月10日(月) 場所未定
 支部会 6月10日(木) 場所未定

文京支部

総会 4月11日(日) 石和温泉ホテルふじ
 支部会 5月10日(月) 大塚すし常本店
 支部会 6月 8日(火) 場所未定

台東支部

総会 5月中旬 場所未定
 4月・6月は会合なし

荒川支部

総会 4月 11日(日) 上野・梅川亭

足立支部

総会 4月25日(日) 鬼怒川温泉あさりや
 ゴルフコンペ
 4月26日(月) 随録カントリークラブ

山手支部

総会 4月17日(土) 鮎やなぎ
 支部会 5月19日(水) 鮎やなぎ
 支部会 6月19日(土) 鮎やなぎ

城南支部

総会 5月22日(土) 牡丹

江墨支部

支部会 4月20日(火) 吉野すし
 総会 5月20日(木) 吉野すし
 支部会 6月21日(月) 吉野すし

城北支部

総会 4月 9日(金) 池袋・隠れ房
 支部会 5月14日(金) 場所未定
 支部会 6月11日(金) 場所未定

◎第54回 通常総会

第48回永年勤続従業員表彰

期日:平成22年5月24日(月)

場所:上野精養軒

時間:午後4時より

◎古紙商品化適格事業所の更新

**平成22年3月31日までに更新に必要な資格を
取得する手続きをしてください。**

- A. ISO14001、9001 認証登録証
- B. エコアクション21 認証登録証
- C. 廃棄物再生事業者登録

以上をお持ちでない方は古紙商品化適格事業所申請書の裏面にある②～⑦の資格を取得する必要があります。

期日が迫ってまいりましたので早急に資格取得の手続きをされるようお願い致します。

すでに資格を取得された方は、先日お送りした更新用の申請書と資格書のコピーを添えて組合事務局に送付ください。

尚、資格取得中で、まだ認証がおりていない場合は、期日（3月31日）を過ぎても猶予がありますので書類が揃い次第、送付ください。

お 知 ら せ

〔4月会議・催事予定〕

- 4月 2日（金）常任理事会（pm2：30）
理事会（pm4：00）組合会議室
- 4月 8日（木）清風会ゴルフコンペ
茨城県・阿見ゴルフクラブ
- 4月16日（金）会計監査（pm4：00）
組合会議室
- 4月22日（木）古紙センター業務委員会
（pm1：30～）センター会議室
- 〃 全原連役員会（pm2：45～）
センター会議室

〔古紙品質調査事業〕

平成22年1月～3月価格

〔新聞 古紙〕	14,000円/トン
〔段ボール古紙〕	16,000円/トン

〔古紙価格〕

〔東資協の古紙4品の標準売値〕

平成22年2月8日現在

新聞	7円～8円（下値横ばい）
雑誌	4円～5円（下値横ばい）
段ボール	6円～7円（下値横ばい）

〔代表者変更〕

城北支部・・・（有）黒田商店

平成22年1月より

新代表者－黒田真司（代表取締役社長）

*前代表者 黒田義孝様は取締役会長に就任

〔組織変更〕

荒川支部・・・（有）シマムラ

平成22年4月1日より

有限会社から株式会社へ

株式会社シマムラ（代表取締役 島村拓也）

〔訃報〕

荒川支部：（株）大久保 代表者 大久保信隆 様
のご尊父 大久保信之様（享年95）が平成22年
3月7日にご逝去されました。

会議概要 [1月・2月]

1 月度定例理事会

[平成22年1月12日(火)] pm4:00～
出席理事 27名 於) 組合会議室

近藤理事長挨拶

新年おめでとうございます。

今月は、合同新年会をひかえており、3月末には古紙商品化適格事業所の更新、古紙リサイクルアドバイザーの更新が迫っております。新年早々に何かと行事が多くお忙しいと思いますが本日もよろしくお願い致します。

[各部報告]

[総務部] 組合会館2階テナント(会社名はティズクリエイト)が12月22日より入居した。
組合会館1階のエントランスの壁の補修工事を12月に終了した。

[直納部]

1月の共販輸出は2社が入札に参加し(株)松本光春商店が国内より高い価格で落札した。
市況全般は、輸出価格が上昇してきている。今年に入り新聞、雑誌、段ボールが上昇。運賃など輸送費が上がり始めており、中国では2月の旧正月に向けて需要が伸びている。国内メーカーは、引き続き減産体制で発注も厳しい状況である。洋紙メーカーでは新聞の価格が横ばいである。

[品目別市況]

[新聞・雑誌・段ボール] 新聞、雑誌は国内の需要が悪い。段ボール価格は国内を上回っている。

[家庭紙] 古紙の発生はタイトである。仕入も

思ったほど入ってきていない。富士地区の家庭紙メーカーでは、製品在庫が増えてきている。12月の製品の販売が悪く製品価格も落ちてきている。全体の需要バランスとして古紙が上がっていかねばならない状況である。家庭紙メーカーには今後、価格問題を含めた雑誌の輸出について説明していかねばならない。

[上台紙] 発生は悪く低調のまま推移。

[切付] 国内需要が良くない。特更紙が売れない。低位でバランスしている。

[返本] 出版界の低迷。発生が悪く価格は横ばい状況である。

[集荷部]

集荷の現状としては、今の価格帯では集荷業者が会社を維持していくのが難しい。洋紙が売れない、古紙の発生が悪い中で問屋としてはどう動いていくのか意見が聞きたい。集荷としては急激な価格上昇は好ましくはなく、安定した価格が好ましい。集荷部会と新年会を2月20日(土)に開催する。

[広報部]

組合総合名簿が完成し年末にお届けをした。今回は、枠組みを入れたりスリム化をしたりと表現の仕方を変えたので、使い勝手を含めて2年先の名簿製作時まで色々な意見を寄せて欲しい。

広報誌は新年号の準備をしている。現在は、支部の忘年会や合同ゴルフコンペ等の原稿のお願いをしている最中である。原稿は今週中にお願いをしたい。

[事業部]

合同新年会に向け最後の調整中である。今回より来賓が多数のため、受付に5時半よりコンパニオンの手伝いを入れるようにした。プログラムはカラオケが中心となるので各支部長は歌う人と曲

目決めておいてほしい。今回の司会は荒川支部の久保田支部長と中締めは文京支部の山田支部長になります。

[青年部]

合同新年会でカラオケの司会・進行の手伝いをする。

古紙センター関東地区委員会

[平成22年1月20日(水)] pm4:00～
於) 古紙センター会議室

[需要動向] 09/12月 単位トン、()は対
前年同月比、在庫の()は在庫率

[関東商組 32 社実績]

[新聞]	仕入	81,717	(95.5%)
	出荷	77,050	(101.0%)
	在庫	15,941	(20.7%)
[雑誌]	仕入	59,154	(92.0%)
	出荷	53,387	(103.7%)
	在庫	14,433	(27.0%)
[段ボール]	仕入	141,788	(99.9%)
	出荷	129,462	(108.1%)
	在庫	31,100	(24.0%)

[関東・静岡実績]

[新聞]	入荷	254,687	(108.0%)
	消費	239,421	(98.7%)
	在庫	185,598	(77.5%)
[雑誌]	入荷	122,359	(103.5%)
	消費	116,951	(103.3%)
	在庫	57,921	(49.5%)
[段ボール]	入荷	285,788	(98.2%)
	消費	261,840	(94.1%)
	在庫	123,364	(47.1%)

[業者側コメント]

[新聞・雑誌]

新聞は相変わらず変化がない。ページ数は前年と同じでチラシが良くない。ダイレクトメールが増えてきている。

ページ数は朝日新聞が読売新聞を抜いた。

雑誌は新聞以上に良くない。電子書籍が増えてきており、今後、15%～20%を占めるのではないかと。

[段ボール]

ダンボールの価格は落ちていない。輸出は中国からの買い圧力が強い。発生が悪いので、今後、海外との事情も考えて対処していけなくてはならないのではないかと。

[メーカー側コメント]

新聞は消費が不振である。回復が遅れて推移している。入荷は各社順調であった。12月は安定在庫を積み上げたが1月はやや入荷ベースが悪い。段ボールは11月・12月にかけて下げ止まったように感じられる。15年前のボリュームとなった。古紙は減産基調で入荷は予定通り入っている。メーカーの在庫は高めで推移している。

古紙センター業務委員会

[平成22年1月21日(木)] pm2:00～
於) 古紙センター会議室

- [1] 平成21年度第3回評議委員会、同第2臨理事会の報告
- [2] 平成22年度事業計画(案)について
- [3] 集団回収実施団体への感謝状交付について(中・四国区委員会推薦)
- [4] 古紙の需要・市況動向について
ページ数の関係で割愛させていただきます。

2 月度定例理事会

[平成 22 年 2 月 3 日 (水)] pm4:00 ~
出席理事 27 名 於) 組合会議室

近藤理事長挨拶

先月に合同新年会を開催し、初めて来賓の方を多数招待したが、盛大に行われて皆さん大変ありがとうございました。

3 月末の古紙商品化適格事業所の更新に向けて必要な資格を取得していただきたい。特に 11 月に講習会を行った廃棄物再生事業者登録は多くの方に取得していただきたいと願っております。本日もよろしくお願い致します。

[各部報告]

[総務部] 組合会館 2 階テナントの会社名がティーズクリエイトとなった。現在、法人化に向け準備中である。

[直納部]

市況全般：発生は少なく 20%減である。2010 年は、洋紙は横ばいで板紙は微増。家庭紙は減産をしており低位安定。

輸出に関しては、関東商組では 3 品とも価格を下げている状況である。

[品目別市況]

[段ボール] 国内は変わらない。景気が良くないので生産もほどほどである。輸出は、12 月は好調で 1 月下旬に入り価格が下がった。発生は良くない。

[新聞・雑誌] あまり変化はない。年末から年始

にかけて雑誌が瞬間的に上昇した。発生は、昨年対比で落ちている。

[台紙] ほとんど変わらない。発生は少なく在庫も少ない。

[返本] 出版業界がひどい落ち込みである。発生も悪い。

[オフィス古紙] 発生は 12 月から 1 月にかけて少し増えた。1 月末からは少なくなってきた。

[集荷部]

集荷の現状としては、今の状況が続くようだと大変困る。価格について問題解決ができないものか。

[広報部]

新年号が 1 月末にお手元に届いたと思う。現在、3 月号に向け準備中である。記事内容は、時の視点として直納部正副部長による市況の分析。静岡県紙業協会家庭紙部会との懇談会、TOM や各支部における新年会の記事を掲載する予定である。

[事業部]

合同新年会が無事に終りホッとしている。今回より来賓者が増えたが会場も広く、カラオケ大会も大変盛り上がり良かった。

[青年部]

今回の新年会に若干の若手が参加し青年部に入部する予定である。

直納部委員会

[平成 22 年 2 月 10 日 (水)] pm3:30 ~

出席委員 18 名 於) 組合会議室

[2月度の共販輸出について]

国内を上回る価格で（株）ジェーオーピーが落札した（フィリピン向け）共販輸出に王子浮間古紙センター{株}が加入。

[市況全般について]

国内の古紙発生は20%減で産業古紙については30%減で低位安定。輸出価格に関しては中国が旧正月で若干、下げ基調。

中国の内需は堅調。国内では家庭紙メーカーが製品の価格修正のための操短に入っている。発生は、ますます減少傾向である。

[品目別]

[段ボール、新聞、雑誌]

発生が少ない。国内メーカーの製品の方は低位安定状況である。古紙の国内需要は伸びないのではないかと思われる。輸出価格は上昇してきており国内を上回る状況だが、価格帯が不安定である。裾物は3品とも輸出価格の方が上回っている。国内は製品も弱含みである。

[オフィス古紙]

2月に入りは発生が落ちてきた。去年は全国で上白、ケントの上物が、オフィス古紙を含めて75万トン輸出された。主な輸出先は中国、タイ、フィリピン等であった。

[家庭紙]

家庭紙メーカーの動向は減産するメーカーが多くなってきている。生産と出荷がほぼ同じ状況が続いている。製品の売れ行きが悪い。燃料が上がってきている。製品値上げと古紙の原料価格との関係がどう動いていくか注目したい。分別費も出ず雑誌化が進んできてしまっている。

家庭紙部会との会議で話し合いの焦点をどこへ

もっていくのか、後ほど集荷部と共に検討していきたい。

[各社の動向]

発生が悪く入荷は15%～20%の減少。在庫はランニングストック状態である。

集直合同委員会

[平成22年2月10日(水)] pm4:30～

出席委員 22名 於) 組合会議室

[直納部の現状]

集荷は20%減。在庫はタイトでランニングストック状態。メーカーへはキャンセルをしたり、プレスを減らして納入している。家庭紙メーカーは、減産を強化し受給バランスを整え製品の価格修正を考えている。

輸出価格は高騰しており雑誌化が進んでいる。受給バランスを考え価格問題を解決していかなければならない。

[集荷部の現状]

景気悪化のため発生は1月～2月で20%の減少。製本・出版業界の景気が悪く、発生が少ないため過当競争が起きている。

[家庭紙部会に向けての対策]

昨年から原料価格が下がったままで変化がない。集荷を存続させるためと、安定供給をするため、輸出に廻らないようにするために、選別費を上乗せした値戻しが必要な時期にきていると思われる

る。裾物と違った上物の付加価値を理解してもらい、品質の維持についての説明をしていきたい。

古紙センター関東地区委員会

[平成22年2月22日(月)] pm4:00～
於) 古紙センター会議室

[需要動向] 2010/1月 単位トン、()は
対前年同月比、在庫の()は在庫率

[関東商組 32 社実績]

[新聞]	仕入	67,627	(99.3%)
	出荷	72,399	(101.3%)
	在庫	11,169	(15.4%)
[雑誌]	仕入	52,214	(91.5%)
	出荷	56,472	(94.4%)
	在庫	10,175	(18.0%)
[段ボール]	仕入	115,107	(99.5%)
	出荷	121,894	(102.4%)
	在庫	4,313	(19.9%)

[関東・静岡実績]

[新聞]	入荷	213,229	(97.7%)
	消費	235,112	(101.0%)
	在庫	163,715	(69.6%)
[雑誌]	入荷	112,391	(101.7%)
	消費	109,671	(106.5%)
	在庫	60,641	(55.3%)
[段ボール]	入荷	250,818	(104.9%)
	消費	240,695	(101.1%)
	在庫	133,487	(55.5%)

[業者側コメント] と [メーカー側コメント] は省略します。

古紙センター業務委員会

[平成22年2月24日(水)] pm2:00～
於) 古紙センター会議室

- [1] 平成22年度古紙回収推進事業の基本方針について
 - [2] 捺染紙混入撲滅対策チームの設置について
 - [3] 集団回収実施団体への感謝状交付について
(近畿地区委員会推薦)
 - [4] 紙リサイクル経験者の新規登録について
 - [5] 古紙の需要・市況動向について
- ページ数の関係で割愛させていただきます。

全原連 平成21年度 第7回役員会

[平成22年2月24日(水)] pm2:45～
於) 古紙センター会議室

理事・監事 60名:

出席 60名 (内、委任出席 34名) 欠席 0名

(1) 古紙再生促進センター 関係

○業務委員会 (2月24日開催)

◎平成22年度古紙回収推進事業の基本方針について

①平成22年2月1日本部特別委員会開催において、オフィス古紙と雑がみ回収の普及に重点を置きながら事業を実施する。本事業は、特別委員会が所管する事業と各地区実

行委員会が所管する事業とに区分する。

②本部特別委員会所管事業（予算：20,000千円）

各地区実行委員会所管事業（予算：80,000千円）一地区 10,000千円

◎捺染紙混入撲滅対策チームについて

- ・メンバー構成：製紙メーカー5名、古紙問屋5名、廃棄物/RPF関係2名、捺染紙・インキ関係4名
- ・委員長：田口 満（王子エコマテリアル㈱）、副委員長：瀧本義継（㈱富澤）

◎集団回収実施団体への感謝状交付について

- ・推薦地区委員会：近畿地区（1団体）、全国地区委員会推薦21年度30団体

◎紙リサイクル経験者の新規登録について

- ・従来：北海道地区1名、東北地区1名、関東地区3名、近畿地区1名、合計6名
 - 新規：北海道地区1名、九州地区1名
- 合計2名

◎今後の日程

平成22年3月15日（月）11：00～14：00

評議員会・理事会（センター会議室）

平成22年3月15日（月）14：00～15：00

業務委員会（センター会議室）

平成22年4月22日（木）13：30～14：30

業務委員会（センター会議室）

(2) 業界 関係

◎経済産業省紙業課関係（報告事項）

- ①「古紙利用率向上の可能性に関する調査事業」検討委員会について
（全原連から栗原正雄、深田和利、大久保信隆、

瀧本義継各氏が委員に就任）

平成23年度利用率の目標値（5年間）を検討する。

②古紙リサイクルシステムを維持するためのヒヤリング（2月5日、2月25日開催）

古紙業界の要望として・在庫能力の拡充（備蓄）の対応

- ・古紙輸出価格低下の場合の対応
- ・古紙卸売業の法制化についての対応
- ・古紙利用によるエネルギー転換するための設備等の対応

(3) 全原連 関係

①総務財務委員会（2月18日開催）

- ・4月～1月度組合経理財務内容は予算通り順調に推移

②平成22年新年会収支報告

- ・収入：970,000円、支出：1,536,873円、予算：1,200,000円

③正副理事長会（2月23日開催）

④特別委員会（2月23日開催）

- ・第3回「J-BRAND 制定委員会」
- ・第4回「国内古紙需給安定システム検討委員会」

◎審議事項（役員会上程、承認事項）

①「古紙商品化適格事業所」・「古紙リサイクルアドバイザー」申請認定について

- ・古紙商品化適格事業所：12月15日（2社、4事業所）累計（403社807事業所）
- ・リサイクルアドバイザー：12月15日（4社、9名）累計（431社、1,959名）
- 2月15日（7社、8名）累計（431社、1967名）

(4) 各委員会報告

- 経営革新委員会（1月21日開催）
 - ・「日本古紙品質認定（J－BRAND）制度」運用規則（案）及び運営細則（案）検討
 - ・第1回「古紙商品化適格事業所」更新について各単組に依頼（2月末全原連事務局）
- 需給委員会（1月21日開催）
 - ・海外視察調査：ドイツ（デュッセルドルフ）
 - ・第13回世界古紙会議（4月28日～29日）参加
- IT推進委員会（1月21日開催）
 - ・「全原連製紙原料システム」拡販のためのアンケート調査（東芝情報機器）
- 渉外広報委員会（1月21日開催）
 - ・優良性評価2事業の広報宣伝について経営革新委員会合同会議

.....

組合では、広く業界関係各社から広報誌の広告掲載を募集しております。

広告スペース、場所、料金等の詳細につきまして組合事務局までお問合わせください。

東京都製紙原料協同組合

電話 03—3831—7980

FAX 03—3831—7880

編集後記

広報部部长 清水 弘允

昨年の紙製品および古紙に関する統計が出ました。予想はしていましたが昨年の紙・板紙製品および古紙の取扱数量は、共に前年比大幅な落ち込みとなりました。

生産ベースで紙製品 1583 万トン（前年比 84.1%）、板紙製品 1043 万トン（前年比 88.4%）の合計 2626 万トン（前年比 85.8%）製品輸出入を計算に入れた国内消費ベースでは合計 2719 万トンでした。この数字は 20 年前の生産レベルに戻った事を意味します。大変厳しい数字です。

古紙に関しては回収量合計 2166 万トン（前年比 95.2%）で製品の落ち込み程には数量が落ちていません。その原因は古紙回収率が前年 75.1%から 79.7%に伸びたからです。一方で古紙在庫が増えなかったのは古紙利用率が前年 61.9%から 63.0%に伸びた事と、中国を中心に輸出が 491 万トンと大幅に伸びた事が原因です。

日本経済と言う土俵が小さくなった以上、古紙業界の土俵も小さくならざるを得ません。オフィス古紙をはじめとした更なる古紙の掘り起こしが課題となります。

他業界に較べればまだましなのかも知れませんが、向かう方向だけは間違わないよう注意しながら、正しい方向に向いて進みたいものです。